

鹿島小だより

第15号 平成30年6月8日（金）発行 文責：鈴木

【電話】0244-46-2240【ホームページ】<https://minamisoma.fcs.ed.jp>

平成30年度重点目標「話し合おう やってみよう」

安全・安心な暮らしを守るために



4年生は社会科の授業で、「事故や事件から暮らしを守る」という学習をしています。その一環として、5月30日（水）には4年生が、南相馬警察署の見学に出かけました。まず、警察署ではどんな仕事をしているのか教えていただきました。南相馬警察署には、子どもに関する事件や振り込め詐欺などを扱う生活安全課、交通事故防止の活動をする交通課、悪い人を捕まえる刑事課など7つの

部署があるそうです。また、普段街中を警らする時にも、警棒と手錠は持ち歩いていることを教わりました。警察署の外に出て、パトカーや白バイにも乗せていただきました。私たちの毎日の生活の中で、警察署の方々のお世話になるようなことがないのが一番ですが、以前見学した消防署と同じように、私たちが安心して安全に暮らせるように、警察や消防の職員の皆さんは、24時間365日休みなく働いてくれているのです。

きれいな音色を響かせて

音楽の時間では1年生から鍵盤ハーモニカを、3年生になるとソプラノリコーダーを使用します。5月30日（水）には喜久川先生にお越しいただき、1年生と3年生にそれぞれの楽器の使い方や手入れの方法などを教わりました。幼稚園や保育所でも鍵盤ハーモニカを練習している所はありますが、きれいな音が出るように鍵盤の押さえ方や息の入れ方などを、1年生は本格的に教わりました。3年生は、初めてソプラノリコーダーを使う人も多いと思います。リコーダーの持ち方から左手だけで押さえて出せる音を中心に練習しました。これから音楽の授業で何回も練習していくうちにだんだんと上手になり、いろいろな曲が演奏できるようになってほしいと思います。



《裏面もご覧ください》

「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」

皆さんは、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」という言葉を聞いたことがありますか。「ふわふわ言葉」とは、言われるとうれしくなる、心が温くなる言葉です。反対に「ちくちく言葉」とは、言われると傷つく、嫌な気持ちになる言葉です。下に例をいくつか挙げてみます。

ふわふわ言葉	ちくちく言葉
ありがとう ごめんなさい すみません こんにちは おはよう さようなら 大丈夫? どうしたの? 一緒に遊ぼう 仲良くしよう よろしくね すごいね やったね がんばって かわいいね よかったね	死ね 殺すぞ 消えろ うせろ あほ ばか カス ぼけ むかつく うざい きもい くさい きたない でぶ ブス ちび たこ のろま 最低 絶交 黙れ 目障りだ くそ野郎 頭悪い ばい菌 無視

最近では、子どもがよく見るバラエティー番組の中でも、出演している人たちの会話の中に「ちくちく言葉」のような心ない言葉を耳にします。子どもたちが大好きなゲームなどでも、アクション系やバイオレンス系のものに「死ね」「消えろ」などの言葉が飛び交います。しかし、テレビやゲームの世界と、私たちの毎日の日常生活では違うのだということを認識する必要があります。皆さんのご家庭ではどうでしょうか。残念なことに、本校でも子どもたちの会話の中に、このような「ちくちく言葉」が聞こえてくることがあります。また、何かトラブルを起こして先生方から注意を受けた時に、子どもから「ちくちく言葉」が返ってくることがあります。言っている方はどんな気持ちなのでしょう。

言葉遣いが好ましくない子どもは、周囲の人が「うざい」「消えろ」などといった言葉を連発している環境で育ったことが原因でそうになってしまうケースと、外からの影響で悪い言葉を覚え、その言葉を発しても何も注意されないまま育ったためにそうになってしまうケースがあると言われています。子どもの頃から吐き捨てるような攻撃的な言葉を遣っていると、それがいつしか口癖になり、将来に渡って悪い印象や評価を受けることにもつながり、本人にとってはとてもマイナスなことです。そんな言葉を遣いながら育った子どもは、将来どんな大人になるのでしょうか。テレビが悪い、ゲームが悪い、友だちが悪いなどと、周囲にその原因を押し付けるのは簡単ですが、根本的な解決にはなりません。私たち大人がまず好ましい言葉遣いを心がけ、子どもたちの間でも「ふわふわ言葉」が多く交わされるようになると、みんなが穏やかな優しい気持ちで生活できると思います。

